
宮崎県埋蔵文化財センター一年報

第 2 1 号

平成 2 9

(2 0 1 7)

年 度

2 0 1 7

序

当センターは、昭和57年（1982年）10月に宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして発足して以来、本年10月で35周年を迎えます。この間、発掘調査機能を加えて平成8年に県総合博物館から分離独立し、平成12年には現在地に本館を新設移転して、東九州自動車道関連の発掘調査をはじめ、各種開発事業に伴う事前調査や様々な教育普及活動を行ってまいりました。平成26年度の組織改正では、重要遺跡の保護や教育普及事業に取り組む体制も強化して、現在に至っております。

当県では、平成27年に「第二次宮崎県教育振興基本計画」の改定や宮崎県総合計画『未来みやざき創造プラン』の「アクションプラン」を策定し、その中でアウトリーチ活動の充実や、ふるさとへの誇りや郷土愛を育てる取り組みの推進等の方針が示されております。

当センターでもこのような施策と関わる事業を展開しており、平成28年度は開発事業に伴う6遺跡の発掘調査と6遺跡の整理作業を実施したほか、県内の古墳の悉皆調査や確認調査等を進め、重要古墳の保護活用に係る事業を推進してまいりました。

また、県民の方々にさらに埋蔵文化財に親しんでいただくための機会の拡充を目的に、分館での常設展や発掘成果展、施設公開等に加え、県内2町村で移動展示会「ふるさと発掘！埋文キャラバン」というアウトリーチ活動も実施しました。

本書は、これら平成28年度に実施した諸事業と当センターの概要についてまとめたものです。埋蔵文化財行政を理解する一助として本書を御活用いただければ幸いです。

なお、本年度も引き続き県民のみなさまに郷土の歴史をより身近なものとして感じていただけるよう、職員一同努力してまいりますので、今後ともみなさまの御理解と御協力をお願い申し上げます。

平成29年5月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 菅付和樹

目 次

I	組織・施設	1
II	埋蔵文化財センターの沿革	3
III	平成28年度の活動状況	5
1	埋蔵文化財緊急調査等	5
(1)	発掘調査	5
(2)	発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査	6
(3)	出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行	7
(4)	重要古墳等保護活用推進事業	8
(5)	保存処理	9
(6)	収蔵整理	9
2	教育普及活動	10
(1)	ふるさと発掘！埋文キャラバン事業	10
(2)	埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」	11
(3)	埋文センター施設公開・体験講座	11
(4)	遺跡発掘速報展・遺跡発掘速報会	12
(5)	分館テーマ展示	12
(6)	出前展示	13
(7)	出前講座	13
(8)	現地説明会・発掘体験	14
(9)	見学・研修等で訪れた団体および職場体験の受け入れ	14
(10)	資料等の提供	16
(11)	職員派遣	21
(12)	埋蔵文化財担当専門職員研修会	21
(13)	広報出版物	21
(14)	ホームページ	21
3	会議・職員研修	21
(1)	各種会議等への参加	21
(2)	共同研究への参加	22
(3)	労働安全衛生関係の講習会等への参加	22
IV	宮崎県埋蔵文化財センター管理規則	23



交差する歴史と神話
みやざき発掘100年

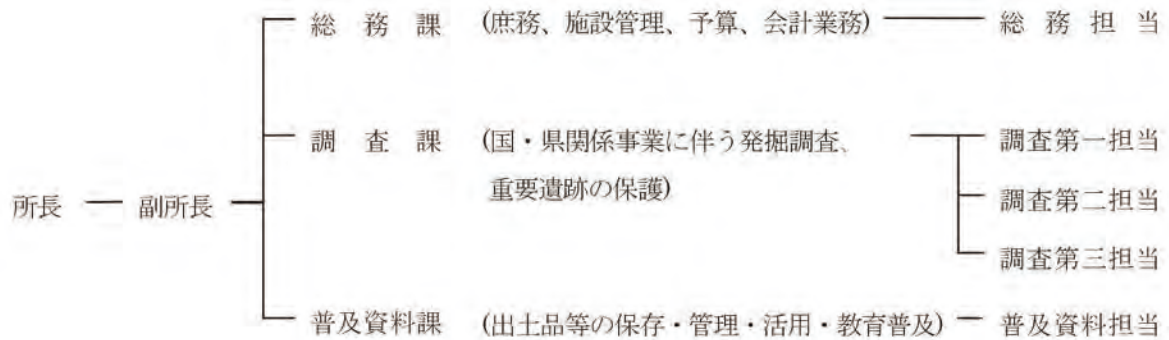
宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地
TEL 0985-36-1171・1172 FAX 0985-72-0660
E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp

I 組織・施設

組織

(平成29年4月1日現在)



所長	菅付 和樹	調査第二担当	
副所長兼 総務課長	甲斐 久志	副主幹	島木 良浩
専門主幹	田方 浩二	主査	竹田 享志 (高速道対策局・併)
総務課 (兼) 課長	甲斐 久志	主査	橋本 英俊 (高速道対策局・併)
総務担当		主査	松浦 朋彦 (高速道対策局・併)
副主幹	寺原 真由美	主査	徳原 宏樹
主査	山崎 智子	主査	恵利 武馬
主査	赤木 恭子	主査	二宮 満夫 (高速道対策局・併)
調査課		主任主事	後藤 清隆
課長	吉本 正典	調査第三担当	
調査第一担当		副主幹	日高 広人
主幹	松林 豊樹	主査	黒木 俊彦
主査	和田 理啓	主査	高橋 浩子
主査	平井 祥蔵	普及資料課	
主査	高村 哲	課長	赤崎 広志
主査	徳田 尚文	普及資料担当	
主査	宇和田 幹彦	副主幹	根井 英樹
主査	甲斐 尚和 (熊本市派遣)	主査	川越 祐一 (非常勤職員)
主任主事	加藤 徹 (非常勤職員)	整理専門員	貴嶋 活実
発掘調査員	下田代 清海		
発掘調査員	永山 鏡太郎		

施設

(本館) 宮崎市佐土原町下那珂4019

本館 2,656.50 m²

① 管理棟・調査研究棟 (鉄筋コンクリート造一部木造平屋建) 1,745.99 m²

事務室	57.76 m ²
所長室	19.86 m ²
情報処理室	33.17 m ²
会議室	78.52 m ²
休憩室	78.52 m ²
調査研究室	248.55 m ²
復元整理室	293.44 m ²
一次処理室	96.81 m ²
図面整理室	61.62 m ²
写場	64.20 m ²
暗室	12.65 m ²
一次保管室 (2層)	188.00 m ²
図書室 (2層)	193.88 m ²
荷捌室	43.01 m ²
その他	276.00 m ²

② 整理作業棟 (収蔵庫) (鉄骨造) 216.76 m²

③ 収蔵庫棟 (鉄骨造) 693.75 m²

(分館) 宮崎市神宮2丁目4-4

分館 (鉄筋コンクリート造2階建) 1,652.38 m²

1階 877.58 m²

一次処理室	121.20 m ²
復元整理室	148.30 m ²
保存処理室	49.30 m ²
(鉄器)	22.70 m ²
(木器)	26.60 m ²
研修室	143.20 m ²
事務室	41.80 m ²
展示室	150.00 m ²
器材庫	11.00 m ²
エントランスホール他	212.78 m ²

2階 774.80 m²

写場・暗室	49.30 m ²
写真保管室	35.10 m ²
図面保管室	53.10 m ²
収蔵整理室	19.30 m ²
収蔵室	564.00 m ²
特別収蔵室	54.00 m ²

II 埋蔵文化財センターの沿革

西暦	年月日	事 項
1980	昭55	「埋蔵文化財調査センター建設計画」立案
1981	56	基本設計を実施
1982	57. 1. 9 7. 29 10. 2	起工式 竣工 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして宮崎市神宮2丁目4-4に設置。 センター長吉田敏明（兼博物館副館長）以下本務職員2名（岩永哲夫、谷口武範）、兼務職員8名、嘱託2名 発令。出土品等の整理保管と教育普及活動を行う。 開館記念講演「日本文化のふるさとをたずねて、東南アジアの旅から」 （講師：国立民族学博物館教授 佐々木高明）
1983	58. 4. 1	センター長細川達雄発令。本務職員を3名（茂山護、岩永哲夫、谷口武範）に増員する。
1984	59. 4. 1	（茂山護転出、菅付和樹転入）
1985	60. 11. 2	文化財保護強調週間の行事として施設公開を初めて行う。
1986	61. 4. 1 61. 7	センター長久徳菊雄発令。兼務職員7名になる。 毎月第4土曜日の映写会「遺跡をたずねて」を始める。
1987	62. 3 62. 4	埋蔵文化財調査研究報告第1集「陣内第2遺跡、蓮ヶ池横穴墓群―遺物編」刊行。 埋蔵文化財講座を始める。
1988	63. 3 63. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第2集「下那珂貝塚」刊行 センター長長友巖発令。本務職員1名（菅付和樹）、兼務職員9名となる。
1989	平1. 4. 1	センター長石井洋博発令。本務職員1名（永友良典）、兼務職員11名となる。
1990	2. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第3集「下北方古墳―遺物編」刊行。 兼務職員13名となる。
1991	3. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第4集「下弓田遺跡―資料編1」刊行。 センター長木幡文夫発令。設備充実の一環として、軟X線撮影装置等を導入する。
1992	4. 4. 1	センター長藤崎景二発令。 埋蔵文化財センター開設10周年記念企画展「宮崎の埋文情報展'82～'91」を開催する。 脱塩装置、赤外線TVカメラシステム等を導入する。
1993	5. 4. 1 9. 15	センター長後藤健志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員15名となる。 空調設備増設
1994	6. 3. 8	特別収蔵庫設置
1995	7. 1. 29 2. 16 4. 1	一般収蔵庫増設工事完成 屋根防水工事完了 センター長関屋清志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員24名となる。 県文化課埋蔵文化財第二係（調査部門）を埋蔵文化財センターに置く。
1996	8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立し、庶務係、調査第一係、第二係、教育普及係（第二係兼務）を置く。 所長藤本健一以下職員37名、嘱託1名発令。 鶴島分室（旧婦人相談所：宮崎市鶴島2丁目11-25）を設置し、調査第一係（東九州自動車道担当）を置く。
1997	9. 3. 17 4. 1	分室を国富（旧国富農業改良普及センター：国富町大字本庄4777-2）に移転する。 職員37名、嘱託7名となる。
1998	10. 4. 1	所長田中守発令。職員39名、嘱託8名となる。
1999	11. 4. 1	職員42名、嘱託8名となる。
2000	12. 1. 20 4. 1	佐土原町に新館が完成し、国富分室を統合廃止する。神宮の旧本館を分館とする。 所長矢野剛発令。課制となり、総務課、調査第一課、調査第二課、普及資料課を置く。 職員52名、非常勤職員12名となる。分館（研修室、事務室、図面保管室、写真保管室）改築工事完成
2001	13. 4. 1 7. 1	職員59名、非常勤16名となる。 調査第一課調査研究室設置
2002	14. 4. 1	所長米良弘康発令。職員63名、非常勤職員17名となる。
2003	15. 4. 1	職員64名、非常勤15名となる。
2004	16. 4. 1	所長宮岡淳一発令。職員62名（うち任期付き職員13名）、非常勤職員12名となる。 収蔵庫用に旧蒔検定工場を農政企画課から所管換え。

西暦	年月日	事項
2005	17. 3. 8 4. 1 8. 18 11. 16	収蔵第一期工事完成。 職員61名（うち任期付き職員19名）、非常勤職員9名となる。 収蔵第二期工事完成。 調査一課整理棟の設置。（東睦原整理作業棟撤去に伴い貸借開始）
2006	18. 4. 1	所長清野勉発令。職員 64 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 8 名となる。
2007	19. 6. 1	職員 64 名（うち任期付き職員 19 名）、非常勤職員 3 名となる。
2008	20. 4. 1	所長福永展幸発令。職員 61 名（うち任期付き職員 16 名）、非常勤職員 2 名となる。調査第一課整理棟撤去。
2009	21. 4. 1	職員 59 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2010	22. 4. 1	所長森隆茂発令。職員 62 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2011	23. 4. 1	職員 53 名（うち任期付き職員 15 名）、非常勤職員 1 名となる。
2012	24. 4. 1	所長北郷泰道発令。職員 42 名（うち任期付き職員 7 名）、非常勤職員 1 名となる。10 月より東日本大震災復興支援で宮城県へ松本 茂を派遣。
2013	25. 4. 1 10. 12 ～ 12 . 8	所長向井大蔵発令。職員 31 名、非常勤職員 1 名となる。引き続き東日本大震災復興支援で、宮城県へ和田理啓を派遣。 特別展『みやざき発掘 100 年－いこしえの「道」と交流』開催
2014	26. 4. 1	所長岩切隆志発令。職員 28 名、非常勤職員 1 名となる。調査第一課と調査第二課を統合し、調査課を置く。東日本大震災復興支援で宮城県へ和田理啓を派遣（2 年目）。
2015	27. 4. 1	東日本大震災復興支援で宮城県へ和田理啓を派遣（3 年目）。本年度で派遣終了。 移動展示会「ふるさと発掘！埋文キャラバン」事業でアウトリーチ活動を展開。 旧調査第一課調査研究室撤去。
2016	28. 4. 1	所長谷口武範発令。10 月より非常勤職員 2 名となる。
2017	29. 4. 1	所長菅付和樹発令。職員 29 名、非常勤職員 3 名となる。平成 28 年熊本地震復興支援で加藤 徹を熊本市に派遣。

Ⅲ 平成28年度の活動状況

埋蔵文化財センターは次に掲げる業務を行っている。

- 1 埋蔵文化財の調査研究
- 2 出土品その他の資料の保存及び活用
- 3 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- 4 埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- 5 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

平成28年度は以下に記述する事業を実施した。

1 埋蔵文化財緊急調査等

(1) 発掘調査

国・県施設、地域高規格道路やスマートインターチェンジ建設に伴う試掘・確認調査及び発掘調査を実施している。本年度は嫁坂遺跡（都城市）、橋通東1丁目遺跡（宮崎市）、平底第2遺跡（日之影町）、塚原遺跡（国富町）など6箇所の本調査を実施した。

発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	嫁坂遺跡	都城市 梅北町	縄文早期	集石遺構13	石坂式土器、塞ノ神式土器	H28. 5. 11 }	9,000 m ²	甲斐尚和 和田理啓 早瀬 航	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 金崎岳工区
			縄文前～ 中期	集石遺構1、 土坑1		H29. 2. 27 (実調査日数 157日)			
			縄文後～ 晩期	竪穴建物跡 6、土坑39、 溝状遺構1	中岳2式土器、 黒川式土器、組 織痕土器、石器				
			古代～ 中世	溝状遺構2、 道状遺構3	土師器				
2	山之後 遺跡	西都市 大字 鹿野田	古代～ 中世	土坑8 小穴8	土師器 須恵器 東播系須恵器 緑釉陶器 瓦 備羽口	H28. 7. 4 } H28. 9. 8 (実調査日数 43日)	300 m ²	加藤 徹 永野一美	県道札の元 佐土原線 瀬工区 道路改良 工事

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
3	橘通東 1丁目 遺跡	宮崎市 橘通東 1丁目	弥生～ 古墳	水田跡、畦畔、 溝状遺構2	弥生土器、土師 器	H28. 9. 6 } H29. 3. 10	2,180 m ²	高村 哲 永野一美 加藤 徹	防災拠点 庁舎整備 工事
			古代～ 中世	水田跡、溝状 遺構1	土師器、須恵器、 白磁、青磁、国 産陶器、土錘	(実調査日数 119日)			
4	平底第 2遺跡 (第2 次 調査)	日之影町 大字七折	縄文早期	—	押型文土器、石 器	H28. 6. 29 }	2,300 m ²	徳原宏樹 松浦朋彦	高千穂日之影 道路 (平底地区) 建設
			縄文晩期 ～弥生	竪穴建物跡5	黒色磨研土器、 弥生土器、石器	H28. 10. 13 (実調査日数 61日)			
5	平田遺 跡 (第2 次 調査)	都城市 南横市町	弥生	竪穴建物跡2 周溝状遺構1 土坑1	弥生土器、石器 (石包丁)	H27. 6. 6 } H29. 2. 21	2,400 m ²	橋本英俊 恵利武馬	国道10号 都城道路 工事
			近世～ 近代	溝状遺構3 井戸跡4	陶磁器	(実調査日数 145日)			
			時期不明	竪穴建物跡1	—				
6	塚原遺 跡 (H・I・ J地区)	国富町 大字 岩知野	旧石器	礫群5	石器	H28. 5. 30 }	14,900 m ²	後藤清隆 長津宗重 金丸大全 甲斐貴充	国富スマート インターチェンジ (仮称)建設
			縄文草創 期～早期	集石遺構15 土坑2	隆帯文土器、貝 殻条痕文土器、 石器	H29. 3. 28 (実調査日数 188日)			
			弥生	土坑7	弥生土器、石器 (磨製石鏃)				
			古墳	古墳(墳丘、 周溝、墓坑) 竪穴建物跡1	壺形埴輪				
			中世	水田跡(畦畔) 溝状遺構7	土師器、陶磁器、 木製品				

(2) 発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査

慎重な比較検討を要する遺跡の調査を実施するにあたって、調査方法等の指導を受けるため各分野の専門の研究者を招聘している。また、職員を派遣し、位置づけの明確でない遺構や遺物について調査を行うものである。

<調査指導>

所属・氏名	指導内容	場所	日程
宮崎大学名誉教授 柳澤一男	塚原遺跡内に所在する古墳の墳丘構造等に関する指導・助言	国富町塚原遺跡	H29. 3. 2.

<資料調査>

目的	出張先	日程	出張者
本年度は該当なし	—	—	—

(3) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。本年度整理を実施した遺跡は7遺跡で、内訳は地域高規格道路が県土木事務所事業2遺跡・国土交通省事業1遺跡、県道改良事業が2遺跡、スマートIC事業・重要遺跡保護に係る事業が各1遺跡である。なお、本年度は発掘調査報告書を刊行した遺跡はなかった。

出土遺物等整理対象遺跡一覧

遺跡名	事業名	事業者
高樋遺跡	県道飯野松山都城線（都城志布志道路）梅北工区道路整備工事	県土整備部都城土木事務所
潮遺跡	県道札ノ元佐土原線潮工区道路整備工事	県土整備部西都土木事務所
山之後遺跡		
嫁坂遺跡	県道飯野松山都城線（都城志布志道路）金御岳工区道路整備工事	県土整備部都城土木事務所
平田遺跡	国道10号都城道路工事	国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所
塚原遺跡	国富スマートインターチェンジ（仮称）建設	NEXCO西日本 県土整備部高岡土木事務所
百塚原古墳群	重要古墳等保護活用推進事業	県教育委員会

発掘調査報告書刊行一覧

集	報告書名	副書名	執筆・編集者
—	本年度は未刊行		

(4) 重要古墳等保護活用推進事業

県内に数多く所在する古墳の現状把握や基礎調査をはじめ重要性のある古墳等の調査・研究を行い、国や県による新たな史跡指定及び指定拡大を目指すなど古墳の保護活用の推進を目的として以下の調査を実施している。

① 古墳の悉皆調査

県内に所在する古墳については、国指定古墳 936 基、県指定古墳 941 基（指定解除除く）、市町村指定古墳 22 基、陵墓参考地 4 基、未指定古墳 384 基、記録保存された古墳約 1,242 基の計 3,529 基が確認されている。このうち、県指定古墳及び市町村指定古墳、陵墓参考地、未指定古墳について、現状の把握とGPSによる位置情報の蓄積および墳丘規模の計測作業を行った。本年度は、173 基について実施した。

悉皆調査一覧

市町村名	古墳名	基数	調査担当者
高千穂町	高千穂町古墳（県指定・未指定）、岩戸村古墳（未指定）、田原村古墳（県指定）、上野村古墳（県指定）、押方南平横穴墓群（町指定）、春姫登横穴墓（町指定）、吾平横穴墓（未指定）、奥鶴古墳（未指定）、町ノ平横穴墓（未指定）、平底横穴墓（未指定）、板木横穴墓（未指定）、今狩平横穴墓（未指定）、宮尾野神社横穴墓（未指定）	39	日高広人 高橋浩子 木場正浩 徳原宏樹
五ヶ瀬町	三ヶ所村古墳（県指定・未指定）	3	
延岡市	川坂城山古墳（未指定）、夫婦塚古墳（未指定）、鬼黒横穴墓群（未指定）、細見古墳（未指定）、上野古墳（未指定）、ガンガン石（未指定）、家田古墳（未指定）、北川陵墓参考地	21	
日向市	追立遺跡（未指定）	2	
西米良村	西米良村古墳（県指定）	3	
高鍋町	光音寺横穴墓（未指定）、野首古墳群（未指定）	4	
木城町	木城村古墳（県指定・未指定）、永山古墳（町指定）	7	
西都市	都於郡村古墳（県指定）、百塚原古墳群（未指定）、永野古墳群（未指定）、上ノ園古墳（未指定）、堂ヶ嶋第2遺跡（未指定）	7	
新富町	富田村古墳（県指定）	43	
宮崎市	広瀬村古墳（県指定）、広原横穴墓（市指定）、住吉村古墳（未指定）、天神山横穴墓（未指定）、曾井横穴墓（未指定）	16	
都城市	二本杉古墳（未指定）、山田町古墳（未指定）	3	
小林市	切畑地下式横穴墓（未指定）	1	
えびの市	小木原古墳（市指定）	1	
高原町	日守地下式横穴墓群（町指定）	16	
日南市	東郷村古墳（県指定）、細田古墳（県指定）、南郷村古墳（県指定）、大東古墳（市指定）、賢所（未指定）、鶴戸陵墓参考地	7	

② 重要古墳の確認調査

県指定古墳の中で、本県及び所在する地域の歴史にとって特に重要と考えられる古墳を選定し、確認調査や地中レーダー探査を実施している。本年度は百塚原古墳群（旧 妻町清水・西原古墳）の確認調査を実施した。

確認調査一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者
1	百塚原古墳群 (旧 妻町清水・西原古墳)	西都市 大字三宅	縄文		縄文土器・石器	H28. 10. 17	297 m ²	高橋浩子
			弥生		弥生土器	〃		木場正浩
			古墳	古墳の周溝 4条 消失墳の周溝2条 地下式横穴墓5基 馬埋納土抗 1基	土師器 須恵器 鉄製品	H29. 1. 13 (実調査日数 47日)		日高広人

(5) 保存処理

普及資料課では、出土した金属製品や木製品について管理や保存処理を行っている。本年度は、7遺跡の木器42点の処理を実施した。特別収蔵庫は除湿器とエアコンによる温湿度管理を実施しているが、24時間管理ではないため、管理する金属器全点を脱酸素剤入りの吸引パックに封入し、密閉容器による収納に移行した。さらに収蔵リストを再構築した。

木器保存処理実施の遺跡

遺跡名	主な器種	保存処理
町屋敷遺跡、井手口遺跡、塚原遺跡、潮遺跡 友尻遺跡、宮ヶ迫遺跡、鳥の子遺跡	木製品（杭）など	糖アルコール法にて処理

(6) 収蔵整理

① 収蔵庫（分館）

分館収蔵庫には、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。平成28年度末における収蔵量はコンテナ8,626箱である。

② 収蔵庫（本館）

新収蔵庫には、主に本館で整理作業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。平成28年度は、コンテナ83箱を搬入した。これまでに搬入した分と合わせると、コンテナ14,448箱の収蔵量となった。

③ 登録作業

分館における平成28年度の実績は9遺跡、コンテナ194箱である。登録累計225遺跡、コンテナ6,464箱となった。本館における同年度の実績は1遺跡、コンテナ83箱であり、登録累計92遺跡、コンテナ3,117箱となった。よって、平成28年度の本館と分館を合わせた登録収蔵総累計は、317遺跡、コンテナ9,581箱である。

④ 図書資料

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。平成28年度は1,636冊の受け入れがあり、合計収蔵数は76,970冊になる。バーコードを利用した図書管理システムを導入しており、パソコンを用いた図書類のデータベース登録を実施している。

2 教育普及活動

平成28年度の教育普及事業は、文化庁の補助事業として27年度から29年度までの3カ年行う移動展示会「ふるさと発掘！埋文キャラバン」を主要事業として実施した。埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」は日曜日開催で年6回行い、「遺跡発掘速報会」も8月に行った。8月の夏休み体験講座も例年通り行い、「施設公開」も11月の文化財保護強調週間中に分館で行った。

発掘調査の成果を公開する分館の常設展示では、埋文講座との関連展示など、テーマ展示を年間3回実施し、常設展示の更新につとめた。平成28年度の分館入館者は6,346名であった。

(1) 移動展示会『ふるさと発掘！埋文キャラバン』事業（文化庁補助事業）

埋蔵文化財センターの業務紹介と時代ごとの解説や遺物の展示、キャラバン講座や関連イベントの実施、「みやぎきの埋蔵文化財ハンドブック-第2集-」の作成・配布など、埋蔵文化財の保護を啓発するため県内の2会場で開催した。

① 名称：移動展示会『ふるさと発掘！埋文キャラバン』

② 主催：宮崎県埋蔵文化財センター

③ 共催：国富町・国富町教育委員会

西米良村・西米良村教育委員会

④ 会場・会期：

国富町立図書館 9月17日（土）～10月23日（日）

西米良村保健センター 11月5日（土）～11月20日（日）

⑤ 観覧者数

国富会場：5,818名 西米良会場：528名 総数：6,346名

⑥ 関連行事：

各会場で体験講座（石器レプリカづくり、土器文様拓本体験、竪穴住居ペーパークラフト、土器パズル）、講演会、展示資料解説等を行った。

(ア) 国富会場 平成28年10月15日（土）・16日（日）・20日（木）参加者240名

(イ) 西米良会場 平成28年11月5・6日、12・13日、19・20日（毎週土・日）参加者223名





国会会場の展示



西米良会場の展示



講演会での展示資料解説

(2) 埋蔵文化財講座「ここまでわかったひむかの歴史」

近年発掘調査報告書を刊行した遺跡の最終成果報告講座として、年6回（5、6、7、12、1、2月の第3日曜日）、午後1時30分から午後3時まで分館研修室で講演会を実施し、関連する遺物も展示して解説を行った。また、参加者を増やす取り組みとして早期の広報活動や学校・団体へ直接出向いての依頼や配布、アンケートによる評価の考察、初心者にもわかりやすい考古学資料の作成等に取り組み、6回の講座に延べ170名の参加者があった。

開催日	講演名	講師	参加者
第1回 H28. 5. 15	「シラスの下に旧石器人の痕跡あり」 山ノ口原遺跡（小林市）	宮崎県埋蔵文化財センター 松浦朋彦	37名
第2回 H28. 6. 19	「災害と埋蔵文化財 － 東日本大震災復旧・復興発掘調査－」 台の下遺跡（気仙沼市）・山王遺跡（多賀城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 和田理啓	27名
第3回 H28. 7. 17	「霧島山麓、生駒高原に暮らした縄文人」 生駒遺跡（小林市）	宮崎県埋蔵文化財センター 菅付和樹	27名
第4回 H28. 12. 18	「山の恵みと縄文人」 前畑・坂ノ上遺跡（日南市）	宮崎県埋蔵文化財センター 吉本正典	11名
第5回 H29. 1. 15	「縄文時代後晩期の土器群」 中床丸遺跡（都城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 永野一美	38名
第6回 H29. 2. 19	「中世の城館跡」 笹ヶ崎遺跡（都城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 根井英樹	30名

(3) 埋文センター施設公開・体験講座

例年、埋蔵文化財センターの事業のPRと埋蔵文化財保護啓発の目的で「施設公開」を開催している。

本年度は、文化財保護強調週間中の11月3日（木・祝）に、「埋文センターで考古学体験」と題して分館において終日開催した。また、夏休みの体験講座として、8月7日（日）に「石包丁をつくろう」講座を行った。

【施設公開】「埋文センターで考古学体験」

開催日	開催場所	内容	参加者
H28. 11. 3	分館	土器水洗体験、土器接合体験、土器拓本しおり体験、発掘疑似体験、石器レプリカ製作体験、ドングリつぶし体験、竪穴住居ペーパークラフト、土器パズル等	212名

【体験講座】「石包丁をつくろう」

開催日	開催場所	内容	参加者
H28. 8. 7	分館	県内出土の石包丁についての特徴や使用法などを学習してから、穿孔部を埋めた石膏レプリカを使って、砂と木の棒による穿孔体験を実施した。	43名



施設公開（石器レプリカ体験）



施設公開（ドングリつぶし体験）



体験講座（石包丁をつくろう）

(4) 遺跡発掘速報展・遺跡発掘速報会

埋蔵文化財センターが近年、報告書を刊行した遺跡や関連する遺跡の資料を展示する遺跡発掘速報展 2016 を、県立図書館 2 階特別展示室において開催した。また、平成 27 年度に県内で埋蔵文化財センターが実施した発掘調査の成果について調査担当者が報告する遺跡発掘速報会を、県立図書館 2 階視聴覚室において行い、関連する遺物も展示した。

【遺跡発掘速報展 2016】

開催期間	開催場所	展示遺跡	参加者
H28. 8. 19～ H28. 9. 11	県立図書館 特別展示室	大窪第 1 遺跡、一本松遺跡、筆無遺跡、戸崎城跡、本城跡、 山ノ口原遺跡、高野原遺跡	635 名

【遺跡発掘速報会】

開催日	開催場所	報告遺跡	参加者
H28. 8. 21	県立図書館 視聴覚室	高樋、平田、塚原、潮、笹ヶ崎(三次)、県内古墳調査	73 名

(5) 分館テーマ展示

分館の展示室において、埋蔵文化財センターがこれまでに発掘調査を行った遺跡について、遺跡ごとに出土遺物を紹介するテーマ展示を年 3 回行った。一部は埋蔵文化財講座や遺跡発掘速報展などの事業との連携を図って構成した。

開催時期	開催場所	展示テーマ	展示遺跡
H28. 4. 30～H28. 8. 30	分館	置県 130 年報告書の遺跡	前畑遺跡、坂ノ上遺跡、生駒遺跡
H28. 9. 27～H29. 3. 31	分館	都城の遺跡 ①	大窪第 1 遺跡、山ノ口原遺跡
H28. 12. 14～H29. 3. 31	分館	都城の遺跡 ②	中床丸遺跡

(6) 出前展示

発掘調査で県内各地から出土した遺物などを各地域で展示し、発掘の成果を公開した。合わせて埋蔵文化財センターの業務内容についての紹介を行った。また、本年度も県高速道対策局関連のイベントに参加して遺物を展示紹介した。

	開催日	名称	場所	内容	参加者
1	H28. 12. 23 ～ H29. 1. 9	遺物が語る我がふる里 「木花地区の遺跡」	県武道館	埋蔵文化財センターの業務紹介パネル 展及び武道館周辺の遺跡である宮崎学 園都市遺跡群関連の遺物を中心に展示	8740 名
2	H29. 1. 28 ～ H29. 1. 29	みやざき産業祭	フローランテ 宮崎	埋蔵文化財センターの業務紹介パネル 展及び遺物展示・解説、「みやざきの 埋蔵文化財ハンドブック」配布、土器 パズル	—
3	H29. 3. 24	第 10 回道づくりを考える 宮崎中央女性の会総会、研 修会	宮崎市清武 文化会館	埋蔵文化財センターの業務紹介パネル 展及び遺物展示・解説、「みやざきの 埋蔵文化財ハンドブック」配布	約 250 名

(7) 出前講座

埋蔵文化財センター職員が県内各地に出向いて、生涯学習団体や学校を対象とした出張講座を実施している。地域の歴史や遺物の展示・解説、遺物に触れる体験、埋蔵文化財センターの業務紹介等を行っている。

	開催日	学校名・機関名	対象	参加者	内容
1	H28. 4. 13	小林市ガイド ボランティア協会	一般	21名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 戸崎城跡発掘調査と遺物の説明
2	H28. 4. 27	宮崎市立広瀬小学校	6年生	113名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 宮崎の歴史、学校周辺・佐土原地区の遺跡
3	H28. 5. 9	川南町立通山小学校	6年生	44名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 宮崎の歴史、川南町の遺跡と遺物
4	H28. 7. 21	広瀬地区公民館講座	一般	17名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 宮崎の歴史、佐土原地区の遺跡と遺物

5	H28. 8. 9	綾町「照葉まなび教室」	綾小学校 児童	25名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 石器レプリカづくり、拓本体験
6	H28. 8. 31	西都市立三納中学校	1年生	28名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 宮崎の歴史、拓本体験
7	H29. 1. 14	都城史談会	一般	53名	③ 埋蔵文化財センターの仕事 ④ 都城志布志道路関連の遺跡と遺物

(8) 現地説明会・発掘体験

発掘調査中の現場を県民の方に見学していただく、遺跡の現地説明会を行った。また、発掘の業務を理解していただくために発掘の体験も行った。

【現地説明会】

	遺跡名	開催地	期日	参加者	内容
1	平底第2遺跡	日之影町大字 七折	H28. 9. 25	50名	① 埋蔵文化財センターの発掘調査について ② 遺跡の調査概要、遺構・遺物の説明と見学 ③ 火山の活動と地層について
2	平田遺跡	都城市南横市町	H28. 11. 12	80名	① 埋蔵文化財センターの発掘調査について ② 遺跡の調査概要、遺構・遺物の説明と見学 ③ 火山の活動と地層について
3	嫁坂遺跡	都城市梅北町	H28. 12. 17	30名	① 埋蔵文化財センターの発掘調査について ② 遺跡の調査概要、遺構・遺物の説明と見学 ③ 火山の活動と地層について
4	百塚原古墳群 (調査成果報告会)	西都市大字三宅	H28. 12. 17	15名	① 埋蔵文化財センターの仕事紹介 ② 遺跡の調査概要、遺構・遺物の説明と見学
5	橋通東1丁目 遺跡	宮崎市橋通東 1丁目	H29. 2. 16	59名	① 埋蔵文化財センターの発掘調査について ② 遺跡の調査概要、遺構・遺物の説明と見学

【発掘体験】

	遺跡名	開催地	期日	参加者	内容
1	平底第2遺跡	日之影町大字 七折	H28. 9. 25	50名	縄文時代の遺構・遺物を調査する発掘を、 実際と同じ手法や道具を用いて行った。

(9) 見学・研修等で訪れた団体およびインターンシップ・職場体験の受け入れ

	内容	場所	団体名	期日	人数
1	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立宮崎東小学校6年生	H28. 4. 28	156名
2	展示見学	埋蔵文化財センター分館	みやざき中央支援学校	H28. 6. 2	25名
3	展示見学	埋蔵文化財センター分館	全国公立埋蔵文化財センター 連絡協議会	H28. 6. 3	32名

	内容	場所	団体名	期日	人数
4	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立西池小学校6年生	H28. 6. 16	26名
5	展示見学	埋蔵文化財センター分館	西米良村歴史再発見の旅:小川地区	H28. 6. 17	23名
6	展示見学	埋蔵文化財センター分館	尚学館小学校1～3年生	H28. 6. 22	58名
7	展示見学	埋蔵文化財センター分館	西米良村歴史再発見の旅:板屋地区	H28. 6. 28	20名
8	展示見学	埋蔵文化財センター分館	西米良村歴史再発見の旅:竹原地区	H28. 7. 8	17名
9	展示見学	埋蔵文化財センター分館	都城市谷頭児童クラブ	H28. 8. 8	33名
10	研修	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立大宮小学校PTA	H28. 9. 10	12名
11	展示見学	埋蔵文化財センター分館	西米良村歴史再発見の旅:上米良地区	H28. 9. 28	16名
12	展示見学	埋蔵文化財センター分館	西米良村歴史再発見の旅:村所西地区	H28. 10. 12	15名
13	展示見学	埋蔵文化財センター分館	日向市立大王谷小学校4年生	H28. 10. 21	66名
14	研修	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	H28. 10. 22	4名
15	展示見学	埋蔵文化財センター分館	西米良村歴史再発見の旅:村所東地区	H28. 11. 2	22名
16	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立広瀬北小学校3年生	H28. 11. 10	120名
17	展示見学	埋蔵文化財センター分館	西米良村歴史再発見の旅:越野尾地区	H28. 11. 15	16名
18	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立倉岡小学校3・4年生	H28. 11. 18	66名
19	研修	埋蔵文化財センター分館	宮崎地質研究会	H28. 11. 26	6名
20	展示見学	埋蔵文化財センター分館	西米良村歴史再発見の旅:横野地区	H28. 11. 29	14名
21	展示見学	埋蔵文化財センター分館	近つ飛鳥博物館視察団	H28. 12. 14	41名
22	研修	埋蔵文化財センター分館	宮崎大学集中講義	H28. 12. 18	31名
23	展示見学	埋蔵文化財センター分館	高鍋神楽保存会	H29. 2. 17	24名
24	研修	埋蔵文化財センター分館	日本考古学協会宮崎関係者	H29. 2. 19	9名
25	展示見学	埋蔵文化財センター分館	小国三八会	H29. 2. 20	19名
26	展示見学	埋蔵文化財センター分館	大阪府高齢者大学校	H29. 3. 16	26名
27	インターン シップ	埋蔵文化財センター本館 および分館	宮崎大学3年生 宮崎学園短期大学1年生	H28. 9. 26～30	2名
28	職場体験学習	埋蔵文化財センター本館	宮崎市立広瀬中学校2年生	H28. 11. 9～11	2名
29	職場体験実習	埋蔵文化財センター本館	キャリアアシスト宮崎	H28. 12. 12～16	1名
30	職場体験学習	埋蔵文化財センター分館	綾町立綾中学校2年生	H28. 3. 27	1名

(10) 資料等の提供

埋蔵文化財センターでは、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る館内利用（資料の閲覧・実測等）や館外貸出及び掲載許可申請があり、平成28年度は館内利用14件、館外貸出24件、掲載許可18件であった。

【館内利用】

	遺跡名・利用資料名	利用目的	利用日
1	高鍋城跡嶋田地区、西下本庄遺跡、南平第3遺跡、本城跡、池島遺跡、前ノ田村上第1遺跡、林遺跡〔貿易陶磁器〕	資料調査	H28. 5. 26
2	次郎左右衛門遺跡、今江城跡、車坂城西ノ城跡、樺山・郡元地区遺跡、曾井第2遺跡、塩見城跡、笹ヶ崎遺跡、櫛間城跡〔貿易陶磁器〕	資料調査	H28. 6. 11～13
3	枯木ヶ迫遺跡、北牛牧第5遺跡、永牟田第1遺跡、前ノ田村上第1遺跡、天神本第2遺跡・大内原遺跡、今井野第2遺跡・天下城山遺跡、別府町遺跡、中ノ迫第1遺跡、山田遺跡、赤坂遺跡、湯牟田遺跡、吉野第2遺跡、野首第1・第2遺跡、牧内第1遺跡、筆無遺跡、尾立第2遺跡、宮ノ東遺跡、曾井第2遺跡、板平遺跡、大島畠田遺跡、高鍋城三ノ丸跡、宮鶴第2遺跡、海舞寺遺跡、次郎左右衛門遺跡、銀座第1・第2遺跡、尾花A遺跡、野地久保畠遺跡、家田古墳群・家田城跡、内野々遺跡、働女木遺跡、東光寺遺跡、富吉前田遺跡、塩見城跡、岡遺跡、延岡城内遺跡、飢肥城下町遺跡、坂ノ口遺跡、宮ヶ迫遺跡、中山遺跡〔火打石・火打金〕	資料調査	H28. 6. 27
4	浦田遺跡、平畑遺跡、下田畑遺跡、赤坂遺跡、陣ノ内遺跡、前原南遺跡、市位遺跡、余り田遺跡、宮ノ東遺跡〔土器〕	資料調査	H28. 7. 30
5	平畑遺跡、陣ノ内遺跡、前原南遺跡〔土器〕	資料調査	H28. 8. 2
6	右葛ヶ迫遺跡〔土器〕	資料調査	H28. 8. 19
7	布平遺跡、虎崩・榎木田遺跡、阿蘇原上遺跡、柿迫遺跡〔土器〕	資料調査	H28. 9. 11
8	妙見遺跡、白ヶ野遺跡、別府原遺跡、音明寺第1遺跡、朝草原遺跡、中床丸遺跡〔土器〕	資料調査	H28. 9. 21
9	山崎上ノ原第2遺跡Ⅱ、竹淵C遺跡〔土器〕	資料調査	H28. 9. 27
10	下田畑遺跡、白ヶ野第3遺跡B地区、宮ノ東遺跡、神殿遺跡A地区〔土器〕	資料調査	H28. 10. 11
11	熊野原遺跡B・C地区、陣ノ内遺跡、前原北遺跡、上ノ原第1遺跡、板平遺跡、尾花A遺跡〔土器〕	資料調査	H28. 12. 22
12	余り田遺跡、山崎上ノ原第2遺跡、高岡麓遺跡、銀座第1遺跡、中別府遺跡〔土器・硯・碗蓋・皿・壺〕	資料調査	H29. 2. 13
13	山田遺跡、菅原洞穴、唐木戸第3〔土器・石器・旧石器〕	資料調査	H29. 3. 18～19
14	山田遺跡、前ノ田村上第2遺跡、前ノ田村上第2遺跡（二次・三次）〔旧石器〕	資料調査	H29. 3. 20

【館外貸出】

	貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
1	鳩箇遺跡 [常滑壺、土師器皿、軽石製品、袋状遺物、渡来銭および報告書掲載写真]	28	平成28年度企画展「災害とむきあう人々」で展示	H28. 4. 4 } H28. 9. 16	都城市教育委員会
2	田代ヶ八重遺跡、神殿遺跡A地区、右葛ヶ迫遺跡、八幡遺跡、曾井第2遺跡、梅北針谷遺跡、塩見城跡、飢肥城下町遺跡 [布痕土器、輪花皿、軽石製品、土製羽口、椀型滓、鉄塊、炉壁、銑鉄、青花皿、皿]	42	平成28年度企画展I「藻塩焼く～日向の塩の考古学～」で展示	H28. 4. 13 } H28. 7. 1	西都原考古博物館
3	学習キット [旧石器・縄文・弥生]、その他 [縄文土器片、石錘]	258	6年生の社会科の授業で使用	H28. 4. 14 } H28. 4. 19	宮崎市立西池小学校
4	竹ノ内遺跡、下那珂遺跡、右葛ヶ迫遺跡市納上第4遺跡 [深鉢、甕、縄文土器片、石錘]	42	6年生の社会科の授業で使用	H28. 4. 16 } H28. 4. 20	宮崎市立 生目台西小学校
5	学習キット [縄文・弥生・古墳]	164	6年生の社会科の授業で使用	H28. 4. 20 } H28. 4. 28	宮崎市立 生目台西小学校
6	学習キット [縄文・弥生時代]	143	6年生の社会科授業で使用	H28. 4. 29 } H28. 5. 6	国富町立本庄小学校
7	学習キット [旧石器]	75	大学の講義で使用	H28. 5. 19 } H28. 5. 20	南九州大学 北郷泰道氏
8	学習キット [縄文]	100	大学の講義で使用	H28. 5. 26 } H28. 5. 27	南九州大学 北郷泰道氏
9	[写真] 土層堆積状況写真	4	平成28年度企画展「災害とむきあう人々」で展示	H28. 6. 10 } H29. 1. 31	都城市教育委員会
10	野首第1遺跡、宮ノ東遺跡、寺崎遺跡 [三角形鏃、方頭鏃、圭頭鏃、鉄刀、鏢、支脚、甕、土中型甕、模倣坏、須恵器坏身、暗文土師器]	22	平成28年度特別展「化内の辺境～隼人と蝦夷～」で展示	H28. 6. 10 } H28. 9. 30	西都原考古博物館

11	宮ノ東遺跡、尾花A遺跡、平峰遺跡（第3次調査）、山崎上ノ原第1遺跡〔蓋、骨鏃形鉄族、短頸壺、平底瓶、鉄鋌、平底鉢、竈形土器、凹字形鉄器〕	9	平成28年度国際交流展「馬韓・百済と南九州」に出展	H28.9.6 } H28.12.16	西都原考古博物館
12	塩見城跡〔土製聖人像〕	1	県立美術館主催事業「伊東マンショの肖像」で展示	H28.9.5 } H28.10.21	宮崎県立図書館
13	学習キット〔旧石器・縄文・弥生〕、その他〔堂地東遺跡出土凹線文壺形土器〕	219	大学の講義で使用	H28.9.28 } H28.9.30	南九州大学 長津宗重氏
14	拓本用土器片、拓本実習セット	38	小中学生を対象とした拓本体験活動で使用	H28.10.17 } H28.10.24	国富町教育委員会
15	山田遺跡、赤木遺跡第8地点（第一次調査）、前ノ田村上第2遺跡〔剥片尖頭器・角錐状石器〕	5	特別展「世界遺産 ラスコー展」の図録、パネル及び広報資料として使用	H28.10.17 } H29.2.24	国立科学博物館
16	学習キット〔古墳〕	21	大学の講義で使用	H28.11.16 } H28.11.19	南九州大学 長津宗重氏
17	拓本セット、拓本用縄文土器、文様付けセット、土器パズル、竹ノ内遺跡出土市来式土器	125	体験活動で使用・展示するため	H28.11.18 } H28.11.19	宮崎市立大宮小学校
18	学習キット〔縄文・古墳〕	121	校内研修で使用するため	H28.12.17 } H28.12.24	西都市立銀上小学校
19	竹ノ内遺跡〔岩偶〕	1	平成28年度企画展Ⅱ「其顔容麗美～顔の考古学」で展示するため	H28.12.20 } H29.3.29	西都原考古博物館
20	塚原遺跡、白ヶ野第2・第3遺跡、春日地区遺跡第2地点、北牛牧第5遺跡、音明寺第2遺跡、東畦原第3遺跡、高野原遺跡第5地点、崩戸遺跡、中ノ迫第1遺跡、野首第2遺跡、前ノ田村上第2遺跡、尾立第2遺跡、向原中尾第4遺跡、俵石第2遺跡、妙見遺跡、大岩田村上遺跡、	137	平成28年度特別展「ここがわかった！ 県南調査展」において展示するため	H29.1.6 } H29.2.20	宮崎県総合博物館

	宮鶴第2遺跡、坂ノ口遺跡、坂ノ上遺跡、東畦原第1遺跡 [細石刃核、細石刃、石斧、ナイフ形石器、スクレイパー、尖頭器、礫器、敲石、ヘラ形石器、台形石器、鋸歯状石器、楔形石器、槍先形尖頭器、搔器、角錐状石器、剥片尖頭器、有舌尖頭器、三稜尖頭器、剥片、石鏃、二次加工剥片]				
21	学習キット [古墳]	21	大学の講義で使用	H29. 1. 11 } H29. 1. 14	南九州大学 長津宗重氏
22	野添遺跡 [種子炭化物]	30	文化交流展示「海の道、アジアの路」(平常展)において展示	H29. 4. 1 } H30. 3. 31	九州国立博物館
23	山田遺跡、赤木遺跡第8地点(第一次調査)、前ノ田村上第2遺跡 [剥片尖頭器・角錐状石器]	5	特別展「世界遺産 ラスコー展」の図録、パネル及び広報資料として使用	H29. 2. 25 } H29. 6. 23	東北歴史博物館
24	下耳切第3遺跡 [円面硯]	1	讃岐と南九州における文字資料の比較研究に伴う資料調査のため	H29. 3. 21 } H29. 3. 23	宮崎産業経営大学 柴田博子氏

【刊行物等掲載(写真等資料提供)】

	資料名	掲載刊行物等	依頼者	申請日
1	[写真] 土層堆積状況写真	平成28年度巡回企画展「【緊急速報】都城市内の遺跡からみた災害の爪あと」パネル作成	都城市教育委員会	H28. 6. 8
2	[図面] 庵川窯跡発掘調査図面	門川町刊行予定「庵川窯跡発掘調査概要報告」執筆のため	西都原考古博物館 谷口晴子氏	H28. 6. 17
3	[写真データ] 宮ノ東遺跡遠景1、宮ノ東遺跡遠景2、宮ノ東遺跡発掘調査風景	平成28年度西都市歴史民俗資料館夏季企画展パネル作成	西都市 歴史民俗資料館	H28. 6. 21
4	[写真データ] 平峰遺跡(1次・2次調査)28号堅穴建物完掘状況、山崎上ノ原第2遺跡・山崎下ノ原第1遺跡調査区全景	平成28年度国際交流展「馬韓・百済と南九州」の展示図録等に掲載のため	西都原考古博物館	H28. 8. 18

	資料名	掲載刊行物等	依頼者	申請日
5	[写真データ] [図面] 熊野原遺跡A・B地区花弁型住居	「郷土 宮崎」(宮崎市教育委員会発行) で郷土資料として掲載するため	宮崎市教育委員会	H28. 8. 10
6	[写真データ] 学習キット [古墳No.19、20] ※迫内遺跡	ウェブ媒体「工芸クロニクル」に掲載するため	中川政七商店	H28. 9. 15
7	[写真] 山崎上ノ原第2遺跡Ⅱ、竹淵C遺跡、平畑遺跡、陣ノ内遺跡、前原南遺跡 [土器]	大学院研究発表会スライドおよび修士論文への掲載のため	別府大学大学院 江口寛基氏	H28. 9. 26
8	[写真] 山田遺跡、赤木遺跡第8地点 (第一次調査)、前ノ田村上第2遺跡 [剥片尖頭器・角錐状石器]	特別展「世界遺産 ラスコー展」の図録、パネル及び広報資料として使用	国立科学博物館	H28. 9. 30
9	[写真データ]学習キット[縄文No.36～65]、[弥生No.19～22] ※下那珂、古城遺跡	高校用英語読解問題集「Reading Adventure」掲載	株式会社 文英堂	H28. 11. 10
10	[写真データ]学習キット[縄文No.99～100]	「ドングリ (コナラ) の絵本」掲載のため	一般社団法人 農山漁村文化協会	H28. 11. 10
11	[写真データ] 笹ヶ崎遺跡 [石製帯飾具]	県総合博物館広報紙「森の通信第61号」に掲載するため	宮崎県総合博物館	H28. 11. 9
12	[イラストデータ] HP「遺跡で見る宮崎の歩み (古墳時代～)」 [イラスト]	「大宮地域の歴史探訪」掲載のため	大宮地域まちづくり 推進委員会事務局	H28. 12. 10
13	[写真データ] 学習キット [縄文No.36～65]	ウェブ媒体「工芸クロニクル」に掲載するため	中川政七商店	H29. 2. 1
14	[写真データ] 宮ノ東遺跡、内野々遺跡、林遺跡、広原第1遺跡、荒迫遺跡	「発見 宮崎の古代—考古学がいざなう ふるさとの歴史」に掲載するため	有限会社 鈿脈社	H29. 2. 14
15	[写真データ]園田遺跡Ⅱ [磨製石剣]	『宮崎県立西都原考古博物館研究紀要』に掲載するため	西都原考古博物館 藤木聡氏	H29. 2. 15
16	[写真データ] 余り田遺跡、上ノ原第2遺跡、高岡麓遺跡、塩見城跡 [須恵器壺片・土師器坏・陶磁器碗蓋・漆椀]	『宮崎県立西都原考古博物館研究紀要』に掲載するため	西都原考古博物館 谷口晴子氏	H29. 2. 15
17	[写真データ] 塩見城跡 [土製聖人像]	「宮崎県立西都原考古博物館2017年度行事予定表」へ掲載	西都原考古博物館	H29. 2. 17
18	[写真データ]西下本庄遺跡、銀座第2遺跡 [火打金]	『宮崎考古』第27号に掲載するため	西都原考古博物館 藤木聡氏	H29. 2. 28

(11) 職員派遣

市町村の教育委員会に埋蔵文化財の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。

内容	派遣期日	依頼者	派遣職員
文化庁天然記念物（地質）現地調査協力	H28. 11. 9-11. 10	文化財課	赤崎広志
延岡城内堀・三階櫓石材等調査指導	H29. 3. 10	延岡市教育委員会	赤崎広志

(12) 埋蔵文化財担当専門職員研修会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県及び市町村埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修を実施している。

内容	場所	期日	参加者数
「地震に起因する災害対策」～収蔵資料をいかに守り、どう地域に活かすか～ 講師 山下 史郎（兵庫県教育委員会文化財課）	埋蔵文化財センター本館	H29. 1. 27	26名

(13) 広報出版物

埋蔵文化財センターの「年間行事案内」及び「埋文通信」の発行を行うとともに移動展示会、施設公開等についてもポスターやチラシ、資料等の作成を行った。

	広報出版物	発行年月
1	平成28年度宮崎県埋蔵文化財センター 年報 第20号 平成28（2016）年度	H28. 5
2	移動展示会『ふるさと発掘！埋文キャラバン』関係 みやざきの埋蔵文化財ハンドブック第2集	H28. 8
3	平成29年度宮崎県埋蔵文化財センター 年間行事案内「EVENT CALENDAR」	H29. 3
4	宮崎県埋蔵文化財センター 通信 「ひむか」19号	H29. 3

(14) ホームページ

本年度は国富町、西米良村における移動展示会「埋文キャラバン」や分館での施設公開、埋蔵文化財講座、本館における整理作業員の募集など各種の広報にホームページを活用した。また、分館におけるテーマ展示の情報や本館における発掘調査の情報も随時掲載した。刊行物ページのセンター刊行報告書の抄録、本文のPDF検索を一覧表で行えるように改修し、利用者の利便性を高めた。

3 会議・職員研修

(1) 各種会議等への参加

全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会ほか主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

内 容	日 程	開催地	出席者
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会 (本年度は開催幹事機関)	H28. 6. 2～ 6. 3	宮崎県宮崎市	谷口 武範ほか
宮崎県地方史研究連絡協議会総会・研修会	H28. 6. 15	宮崎県宮崎市	根井 英樹
文化財担当者研修「文化的景観調査計画過程」	H28. 9. 11～9. 16	奈良県奈良市	松林 豊樹
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	H28. 10. 13～10. 14	山口県山口市	甲斐 貴充
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会	H28. 10. 28～10. 21	奈良県橿原市	日高 広人
文化庁平成 28 年度 第 2 回埋蔵文化財担当職員等講習会	H29. 2. 1～ 2. 3	滋賀県大津市等	和田 理啓

(2) 共同研究への参加

所外の研究者や機関等が主催する共同研究へ職員が参加するものである。

内 容	日 程	参加者
—	—	本年度は該当者なし

(3) 労働安全衛生関係の講習会等への参加

発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、以下の各講習会へ参加している。

内 容	日 程	参加者
安全衛生推進者養成講習	H28. 4. 26～ 4. 27	高村 哲 甲斐 尚和 徳原 宏樹 金丸 大全 恵利 武馬 後藤 清孝 川越 祐一
足場の組み立て等の業務に係わる特別教育	H28. 5. 17/10. 13 /11. 8	和田 理啓 高村 哲 甲斐 尚和 加藤 徹 橋本 英俊 甲斐 貴充 金丸 大全 徳原 宏樹 恵利 武馬 後藤 清隆 高橋 浩子
救急救命講座(心肺蘇生法・AED操作法・応急手当)	H28. 5. 9/5. 16	総務課・調査課・普及資料課 各職員
地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習	H28. 5. 24～26	木場 正浩
第二種衛生管理者受験準備講習	H28. 6. 14～6. 15	徳田 尚文
第二種衛生管理者免許試験	H28. 8. 7	徳田 尚文

IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

平成8年3月29日
教育委員会規則第5号

改正

平成12年1月20日教育委員会規則第1号
平成12年3月31日教育委員会規則第8号
平成12年12月18日教育委員会規則第21号
平成18年3月30日教育委員会規則第9号
平成19年3月30日教育委員会規則第3号
平成20年3月31日教育委員会規則第6号
平成26年3月27日教育委員会規則第2号
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則をここに公布する。
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(趣旨)

第1条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター及び宮崎県埋蔵文化財センター分館（以下「埋蔵文化財センター」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第2条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。

- (1) 埋蔵文化財の調査研究に関すること。
- (2) 出土品その他の資料の保存及び活用に関すること。
- (3) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
- (4) 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関すること。
- (5) 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関すること。
- (6) その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関すること。

(組織)

第3条 埋蔵文化財センターに、次の課を置く。

総務課
調査課
普及資料課

(分掌事務)

第4条 前条に規定する各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

- (1) 職員の人事、給与及び服務に関すること。
- (2) 予算の執行及び決算に関すること。
- (3) 文書の收受、発送及び保存に関すること。
- (4) 公印の管守に関すること。
- (5) 施設及び設備の管理に関すること。
- (6) その他他の課の所管に属さない事項に関すること。

調査課

- (1) 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- (2) 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- (3) 重要遺跡の発掘調査及び保護に関すること。
- (4) 前3号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
- (5) 第1号から第3号までの発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

普及資料課

- (1) 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関すること。
- (2) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
- (3) 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料（以下「資料等」という。）の貸出しに関すること。
- (4) 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関すること。

(職及び職務)

第5条 埋蔵文化財センターに、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
所長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副所長 (2人)	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。
課長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主事	上司の命を受けて、事務に従事する。

2 前項に規定する副所長の職務の担当区分は、1人を統括とし、他を業務担当とする。

3 第1項の規定により副所長が所長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。

第1順位 統括の副所長

第2順位 業務担当の副所長

4 第1項に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
副参事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
専門主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
副主幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

(その他の職)

第6条 前条に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要に応じ、技術員を置く。

2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間等)

第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休館日)

第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

区分	休館日
宮崎県埋蔵文化財センター	1 土曜日及び日曜日 2 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。) 3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで(休日を除く。) 4 特別整理期間(あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。以下同じ。)
宮崎県埋蔵文化財センター 分館	1 月曜日(休日に当たるときを除く。) 2 休日の翌日(土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。) 3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで 4 特別整理期間

2 所長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に同項に定める休館日に開館し、又は同項に定める休館日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、その入館を制限し、若しくは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

(1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。

(2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。

(3) 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。

(4) 条例若しくは規則又は所長の指示に従わないとき。

(5) 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書(別記様式第1号)を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

第 11 条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 2 条第 1 項に規定する博物館及び同法第 29 条の規定により文部科学大臣又は宮崎県教育委員会が博物館に相当する施設として指定したもの
 - (2) 社会教育法(昭和 24 年法律第 207 号)第 21 条に規定する公民館
 - (3) 学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 1 条に規定する学校
 - (4) 国又は地方公共団体の設置する教育又は文化に関する調査研究機関
 - (5) 市町村立の歴史民俗資料館等で宮崎県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が定めるもの
 - (6) その他教育長が適当と認めるもの
- 2 資料等の館外貸出しの期間は、30 日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。
- 3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書(別記様式第 2 号)を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。
- 4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。
- (1) 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
 - (2) 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。
 - (3) 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。

(弁償)

第 12 条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

(委任)

第 13 条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。
(宮崎県総合博物館管理運営規則の一部改正)
- 2 宮崎県総合博物館管理運営規則(昭和 46 年宮崎県教育委員会規則第 4 号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附 則(平成 12 年 1 月 20 日教育委員会規則第 1 号)

この規則は、平成 12 年 1 月 20 日から施行する。

附 則(平成 12 年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号)

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 12 年 12 月 18 日教育委員会規則第 21 号抄)

(施行期日)

1 この規則は、平成 13 年 1 月 6 日から施行する。

附 則(平成 18 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号)

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 19 年 3 月 30 日教育委員会規則第 3 号)

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 31 日教育委員会規則第 6 号)

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 26 年 3 月 27 日教育委員会規則第 2 号)

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

別記

様式第 1 号

第 10 条関係)

様式第 2 号

(第 11 条関係)

別記
様式第1号（第10条関係）

資料等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考

別記
様式第2号(第11条関係)

資料等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館外貸出を受けたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第11条第3項の規定により、次のとおり申請します。

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで		

